

土壌汚染の防止と浄化

徹底調査と完全浄化を実施

富士フィルムでは、土壌・地下水汚染に関する関心の高まりなどにいち早く対応し、自主的に環境調査を実施しています。その結果、足柄工場、小田原工場の土壌から環境基準を超える物質が検出されました。両工場とも、速やかに行政機関に届け出て、地域住民の方々への説明会および報道機関への公表を行うとともに、浄化対策を実施しました。

足柄工場では5地点の表土から環境基準値を超えるフッ素、総水銀、鉛を検出しました。過去に使った溶剤や施設建設の接着剤の一部が漏れたものと考えています。県や市の調査で施設外の汚染は確認されず、周辺地域への影響はありませんでした。汚染された土壌(計51m³)は掘削・搬出および清浄土

の入れ替えにより、2002年3月末に浄化を完了しました。

小田原工場では、敷地内土壌から環境基準値を上回る鉛を検出しました。以前、工場内にあった光学ガラス工場で使用していた鉛化合物が土壌に漏出したものと考えています。2002年1月には、環境基準値を超えた区域と元光学ガラス工場熔融工程周辺の土壌(計458m³)の入れ替えを完了させました。

富士フィルムは、これからも環境基準値が定められている物質について使用・在庫管理および排水管理を厳重に行うと同時に、観測井による地下水水質の定期的なモニタリングを実施していきます。

詳細は各工場のサイトレポートでも報告します。

調査結果

	対象物質	調査結果溶出量 (環境基準値)	環境基準値に対する倍率	浄化の状況
足柄工場	フッ素	8.6mg/L (0.8mg/L)	21.3倍	浄化完了
	総水銀	0.00072mg/L(0.0005mg/L)	4.8倍	
	鉛 (環境基準値を超えた3地点のデータ)	0.011mg/L (0.01mg/L)	1.1倍	
		0.025mg/L (0.01mg/L)	2.5倍	
		0.016mg/L (0.01mg/L)	1.6倍	
小田原工場	鉛 (環境基準値を超えた4地点のデータ)	0.15mg/L (0.01mg/L)	15.0倍	浄化完了
		0.029mg/L (0.01mg/L)	2.9倍	
		0.021mg/L (0.01mg/L)	2.1倍	
		0.02mg/L (0.01mg/L)	2.0倍	

富士写真光機の地下水汚染

さいたま市の富士写真光機が2000年10月に実施した自主調査の結果、敷地内の地下水から環境基準値を上回るテトラクロロエチレン、トリクロロエチレンを検出しました。その後、浄化対策、近隣民家の井戸水調査を継続して実施してきました。現在の浄化状況は、敷地内の11本の井戸から揚水して3基の処理装置で該当物質の拡散を防止し、回収する処理を行っており、濃度は低下してきております。また、より一層の浄化促進を狙って相対的に地下水濃度が高い箇所の土壌と地下水を直接除去する工事も行いました。しかし、未だ環境基準値をクリアしていないため、更に効果的な処理方法の検討・適用により早期解決を図ってまいります。

なお、検出された2種の物質は1960年から金属やガラスの洗浄用として使用していましたが、1976年以降は一切使用しておりません。

富士写真光機の地下水浄化の経過に関しましては、同社ホームページで公表しております。

(<http://www.fujinon.co.jp/jp/news/repo.htm>)